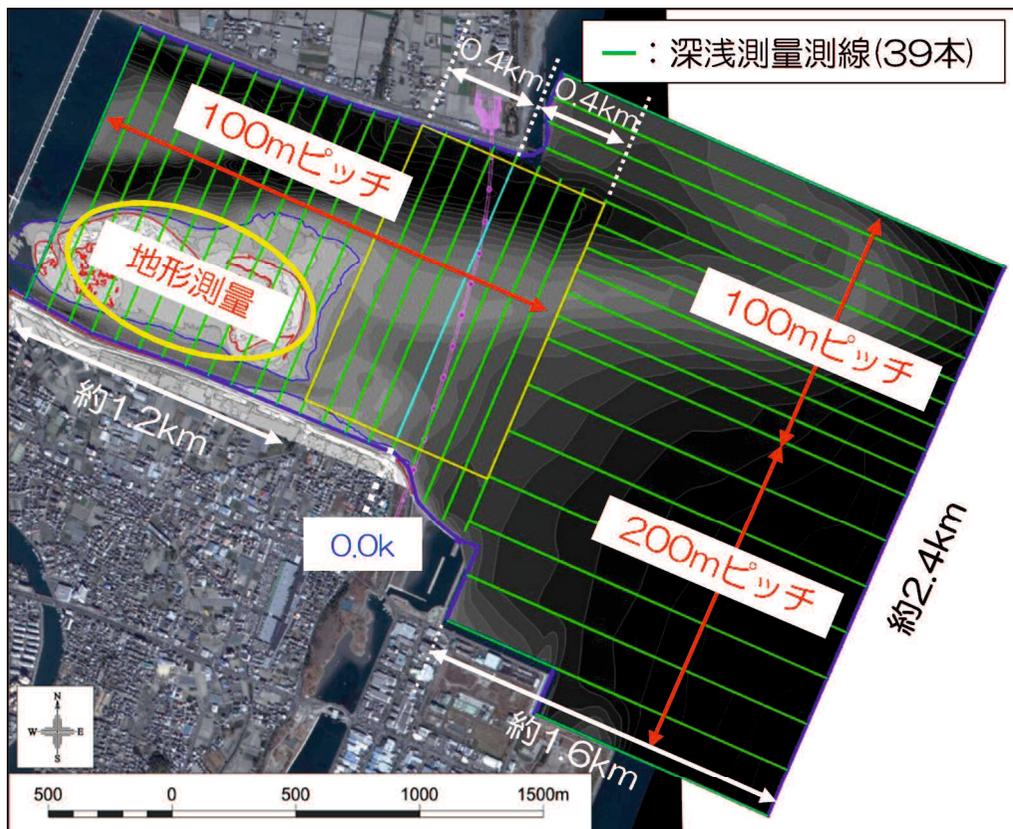


# ■ 地形調査



■ 橋脚の存在による流況変化によって生じる地形変化の監視として、下記に着目した調査を行う。

- 橋脚の存在による影響で生じる地形変化
  - 自然変動で生じる地形変化
- ※工事浚渫に伴う地形変化は上記の調査にて把握する。



※測線の間隔は100mを基本とし、沖合の河口テラスより以南は200m間隔の測線とする。

## ■ 監視項目

| 項目                 | 調査の位置づけ  | 調査箇所                          | 地形調査 |      |
|--------------------|----------|-------------------------------|------|------|
|                    |          |                               | 深浅測量 | 地形測量 |
| 橋脚の存在による影響で生じる地形変化 | 直接的な影響把握 | 吉野川距離標0.0kの上下流400mの範囲         | ○    | ?    |
| 自然変動で生じる地形変化       | 自然変動の把握  | 上記の範囲外として、上流に約1.2km、沖合に約1.6km | ○    | ○    |

## ■ 調査内容及び調査時期

| 調査区分                  | 調査内容  | 時期・頻度  |
|-----------------------|---|--|
| 事前調査<br>工事中調査<br>事後調査 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 深浅測量 (潮下帯の地形把握)</li> <li>• 干潟地形測量※2 (河口干潟の形状把握)</li> </ul> | 年2回※1<br>・夏季：6月<br>・秋季：10月<br>年2回<br>・夏季：6月<br>・秋季：10月 |

※1：調査時期は、下部工施工期間(非出水期)を外した時期とし、非出水期(11月～5月)が終わった翌月の6月と、出水期(6月～10月)が終わる10月末頃に実施する。

※2：干潟地形測量は、航空レーザー測量により干潟の地盤高を計測する。

